

特別稿

福島県産品と震災

―観光物産館の売り上げは震災前の三倍に―

公益財団法人 福島県観光物産交流協会職員
福島県観光物産館 館長
櫻田 武

福島県産品は、二〇一一年の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故が発生したことにより、大きな困難に直面しました。

長年福島県産品の販売に携わってきた福島観光物産館 館長の櫻田武さんに、震災前から現在までの福島県産品の販売について寄稿をお願いしました。

現在、私は福島県福島市にある福島県観光物産館で働いている。県内全域から県産品を集めて販売している施設だ。五年前に転勤で福島に戻るまでの二一年間、東京で県産品を販売する仕事をしてきた時代を中心に、今回ご報告したいと思う。

現在は大丸東京店がある東京駅丸の内北口に、かつて国際観光会館というビルがあった。都道府県の観光案内所が集まってテナントとして入居し、福島県も観光案内所を構えていた。そ

の観光案内所に所属しながら、平成八年から首都圏の百貨店を会場に福島県の観光物産展を企画実施していた。福島の地元から生産者が実際に来て、お国訛りで販売する当たり前のスタイルが人気だった。当時は素晴らしい百貨店マン、デパートマン達が出て、田舎から出てきた私に仕事を教えてくれ、大汗をかいて一緒に福島物産展を運営してくれた。一体感があった。また、なんの保証もないし、宿泊費、交通費、運搬費がかかる中、一緒に百

貨店に出店し県産品の宣伝と一緒にしてくれた生産者達には感謝しかない。一番売上げがあった年は年間六億円を超えた。生産者とともに百貨店系列の高級スーパーに商談をあらかじめ申込み、物産展終了後に商談会を開催し、常時百貨店で商品を扱ってもらえるよう繋いだこともあった。

店長として震災を経験した

平成一八年江戸川区葛西にあるイトーヨーカドー葛西店に、全国的に珍しい福島県産品の首都圏アンテナショップ「ふくしま市場」をオープンした。初代店長として物産展を開催しながら開店にこぎつけた。売り場が二四坪しかない小さな店だった。開店当時は人気の桃があったので順風満帆に売り上げを伸ばしていった。しかし桃がなくなつてからは、販売の中心を失い、来店者も売上げも厳しくなつた。次年度から県、本部と話し合い、全



●福島県観光物産館 福島は酒処 人気の地酒、地ビール、ワイン常時約1100種類並んでいます。

権を得て販売商材、運営を任せてもらえるようになった。春には山菜祭りを開催し、ワラビは灰汁でアク抜きの方法を実演で行ない、コシアブラ、タラの芽、アイコなどは天ぷらで、タケノコは御飯を作ってお客様に試食してもらい、大人気だった。春野菜、夏野菜も地元の直売所から直送して、朝は行列ができるくらい人気になった。ササニシキ、コシヒカリ、ヒトメボレ、



●県産品を求めて地元のお客様で賑わう観光物産館

ミルキークイーンを中心とした多種のお米を、毎日炊飯器で炊いて試食を出して味の違いを分かってもらった。地元密着の八百屋さん、魚屋さん感覚の店になっていった。

毎年売上げも伸ばし、地域の台所を支えるまでの店になった矢先、忌まわしいあの三月一日が来た。ふくしま市場も強烈な揺れが襲った。スーパー内の棚陳列物が落下、転倒した。しかし、奇跡的にふくしま市場は瓶一本割れなかった。スタッフ全員自宅に帰り、一人で店番をして夜九時まで営業

を続けた。近所のお客様が津波で福島が大変になっていることを伝えに来てくれた。

三月一二日朝、スタッフは全員出勤してくれた。お客様が開店と同時にだれ込んできた。買い占め騒動だ。アンテナショップふくしま市場もお米、野菜、水、加工品が一日で売り切れて、一三日には調味料まで売り切れてしまった。お客様が福島の原子力発電所が爆発したと知らせに来てくれた。これで福島は全てがダメになると思った。ヨーカドーの担当者も来店し、今後どうするか意見を求められた。本部、県とも話をして、お店は閉めない。県産品販売を継続すると伝えた。

三月一六日には福島から車でお米を納品してくれる生産者が現れ、コシヒカリ五キログラム二〇〇袋が三分で完売した。翌日も沢山の農家さん達が協力してくれて福島から運んでくれた。全国に散らばって物産展に参加していた業者の商品が、福島に返せないため、ふくしま市場に集めて販売した。スーパーの棚はガラガラなのに

一番商品がなさそうな福島県のアンテナショップが大量の商品であふれていた。お客様が長蛇の列を作っていた。お客様が買い物をしてくれた。ありつもの通りに買い物をしてくれた。ありがたかった。人気の野菜は毎日出荷規制の連絡が入り、次第に種類が少なくなっていた。福島の生乳が出荷停止になり、岩手の原乳でヨーグルトを作った乳業メーカーは出荷してくれた。飛ぶように売れた。

毎日のように、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌の取材が入った。BBC、ドイッテレビ、フランス国営放送も来た。復興支援買いも始まり、イベントを企画する団体から大量の電話が入り、参加できる福島の団体の紹介を行った。店は大行列、取材と、寝る時間が本当になかった。山菜祭りはやることにしたが、地域によって出荷停止になっていたため県のモニタリング、町村のシンチレーション式の検査機での検査、民間検査機関への自主検査をお願いして山菜は販売した。あんぱ、凍み餅、凍み大根などは、その冬は作れないので、売れてなくなっていた

く姿を見て複雑な気持ちになった。

震災後初の果物サクランボを販売した。検査機で計って一キログラム当たりセシウムが二〇ベクレル検出されていた。国の定めた基準値以下ではあるが、ゼロではなかった。検査結果を掲示して販売した。桃も七月中旬に早生品種の「日川白鳳」を販売した。検査結果はセシウムが一五ベクレル検出されていた。掲示してお客様に販売した。サクランボも早生の桃も過去最高の売上げを記録した。

支援買いがあったのは間違いない。ただ常連のお客様で来なくなった方も多数いたことは事実だ。桃の主力品種「あかつき」も販売した。福島では五キロ一〇〇円しか値が付かなかった。大量の桃が廃棄された。考えられない安値で販売された。福島の誇りを失った瞬間だ。しかし、アンテナショップふくしま市場では例年通りの価格ギフト用五キロは五四〇〇円で販売した。過去最高の売上げだった。都会の方々、近隣のお客様の支援は本当にありがたかった

た。八月下旬には新米「五百川」を販売した。検査結果が気になった。限界値以下であった。どこよりも早く震災後、福島県産の新米を販売し沢山のお客様が買って喜んでくれた。年末に福島牛の精肉も大量に販売し大人気だった。

東電の本社でも県産品の販売会を福島県民で初めて開催した。若手の農業従事者と一緒に行った。経産省も行った。企業内販売会がどんどん増えていった。外務省の計らいで、IAEA

の各国の役員がアンテナショップに買い物に来てくれた。毎日が取材、来客、外販の震災後一年が過ぎていった。

福島県が、日本橋に新しいアンテナショップを開店させることになり、初代アンテナショップふくしま市場は閉店することになった。最後の日には商品が完売し、夜の九時閉店時には一〇〇人以上のファンが訪れ、別れを惜しんだ。あれほど繁盛し、地域住民から愛されているアンテナショップにはないと思っ

ている。日本橋のアンテナショップの立ち上げを任された。ふくしま市場閉店後

から四〇日後に開店させなければならなかった。販売商品、催事予定、レアウト、飲食コーナーのメニューなど全てを何とか間に合わせ、オープンにこぎつけた。都心初の福島県のアンテナショップということで、大変な人出になり、何千人も入館できないまま初日を終えた。福島を応援していただき沢山の方々の熱い思いで、涙が止まらなかった。

県産品は普通に売れている

今でも東京勤務時代のことは忘れない。

沢山の方々の支援によって福島は生かされた。死ななかった。その経験から言いたいことがある。風評被害についてだ。私は風評被害に立ち向かったとか、風評被害を経験したことが一度もない。東京で福島県産品を売る最前線にいたはずなのに。最初は支援買いが確かであった。今では、支援買ひもなければ、食べて応援する話もない。その中でも県産品は普通に売れて

いるし、地元でも人気が高い。

五年前だが、東京都内で営業している人気の都道府県別アンテナショップを一七軒集めて横浜高島屋で全国アンテナショップ祭りが開催された。

同じ広さの売り場で売り上げを競う企画催事だ。売上一位は私が担当した福島県だった。翌年そのアンテナショップ祭りで上位八県が集まった際も、売上一位は福島県だった。二年前の日

暮里駅構内での販売会では県産の桃を販売したが、沢山の訪日外国人観光客が県産桃を買ってくれた。福島県産品だと説明しても買ってくれた。その年の駅構内の臨時販売で福島県の販売会が売上一位と言われた。福島県観光物産館も昨年売り上げが震災前の三倍になった。

県産品が売れないという現象は全く経験していない。それどころかいつも売れて人気だ。

もし県産品が売れていないというのであれば、他に原因があると思う。もちろん風評がないとは言わないが、論点がずれて、責任も風評に転嫁して

しまいがちだ。

今私が働いている観光物産館に土日の朝一番に来館すれば、私の言っている意味が分かると思う。

(原発事故後に沢山の廃業した生産者、離農者、船から降りた漁師達、未だにある帰還困難区域、広大な耕作放棄地、継承されない地域の文化。沢山のやりきれない思いと、解決しない問題があることは消しようのない事実だが)

皆様には、是非、先入観を持たないで福島に来てほしい。

いつも通りの飾らない福島が皆様を待っています。



公益財団法人 福島県観光物産交流協会職員
福島県観光物産館 館長

櫻田 武
(さくらだ・たけし)

1969年福島県生まれ。明治大学政治経済学部経済学科中退。1996年社団法人福島県物産振興協会入社東京支所配属。2006年東京都江戸川区葛西イトーヨーカドー葛西店内に福島県初の本格的アンテナショップ「ふくしま市場」オープンのため転勤。2014年新アンテナショップ日本橋ふくしま館開設準備室長。日本橋ふくしま館副館長などを経て2018年4月から観光物産館館長に就任。